

平成 31 年中に全国で発生した食中毒事件で 13,018 人の患者が発生していますが、下図の円グラフはどのような原因物質（ウイルス、細菌、寄生虫、毒物など）による患者が多いかを割合で示したものです。

ノロウイルスを原因とする患者数の割合が全体の 53%と約半数を占め、他の原因物質に比べ事件数の割には非常に多いことがわかります。その理由はノロウイルスの場合、他の原因物質と比べてわずかな量（10～100 個）を摂取しただけで食中毒になってしまうなど感染力が非常に強いためと考えられます。

病因物質別 患者数(令1年/全国)

